

改造で地域を活性化

見た目はごく普通の白い軽乗用車だが、実は電気自動車(EV)。ガソリンエンジンを取り外し、モーターと10個のバッテリーを搭載した。「作るときはおもちゃのようで楽しかったんですよ」。車好きの少年のように目を輝かせて語る。

昨年7月に県内の自動車整備会社や電子機器メーカー、県立大など16社3団体で「あきたEV研究会」を設立。基準が多岐にわたる国の改造EVのガイドラインをクリアし、同12月に東北で初めてと



あきたEV研究会会長 鎌田 学さん

なる公道走行可能な改造EVを完成させた。ダイハツのミラジョーノをベースに製作した第1号車は最高時速1000km/h、1回の充電で30〜40km走れるという。

物心ついたころから車が好き。道行く自動車の車名は何でも分かった。小学生の頃、家族に無断で家の車のタイヤを交換してしまい、怒られたこともある。大人になり夢だった自動車関係企業へ就職。ディーラーで営業などの経験を積み35歳で独立、自動車の販売や買い取り、整備をする会社を設立した。

近年「環境に優しい」としてハイブリッドカーやEVの普及が進む。だが、町の整備工場にとっては、構造や機器が特殊なため修理できない部分があり、「仕事が減る」として、全コスト。

面的には歓迎できない状況だった。そこで、「まだ使える車を捨てて電気自動車に乗り換えるのではなく、今のガソリン車を改造してEVにすれば良いのでは」とひらめいた。

かまだ・まなぶ ドラグーン社長。中古車買い取りと販売の「ラビット秋田臨海店」経営。秋田市出身、47歳。



あきたEV研究会の鎌田学会長。秋田市河辺和田で

一度改造してしまえば維持費はガソリン車の6分の1ほどで済むが、現在は改造に約180万円かかる。だが、「まだスタートラインに立ったばかりだから」と今後に期待する。

【坂本太郎】